



子育て通信

# カナリヤ

発行 第314号 2021. 12. 1.

時津町子育て支援センター『こぼとの家』  
 長崎県西彼杵郡時津町西時津郷 1000-10  
 支援センター TEL095-882-7455  
 保育園 TEL095-882-4559  
 FAX095-882-4910  
 ホームページ  
<http://www.togitsukobato.jp>

「ベビーヨガ」を行いました。ママとのスキンシップの中で笑顔いっぱいの時間となりました。



## 『もみの木』

もみの木 もみの木  
 いつもみどりよ  
 もみの木 もみの木  
 いつもみどりよ  
 かがやく なつの日  
 ゆきふる ふゆの日  
 もみの木 もみの木  
 いつも みどりよ

もみの木 もみの木  
 こずえしずかに  
 もみの木 もみの木  
 こずえしずかに  
 よろこびかなしみ  
 やさしく見まもる  
 もみの木 もみの木  
 こずえしずかに

時津こぼと保育園  
 園長 嘉村 望

もみの木 もみの木  
 しげれゆたかに  
 もみの木 もみの木  
 しげれゆたかに  
 雨にも くじけず  
 かぜにも おられず  
 もみの木 もみの木  
 しげれゆたかに

～もみの木～  
 作詞：中山知子 作曲：ドイツ民謡

クリスマスツリーを飾る習慣は、ドイツから始まったのではないかとされています。常緑樹（エバーグリーン）であるモミの木は、冬の間も緑を保つため、強い生命力の象徴とされてきました。

ツリーの一番上の星は「キリストの降誕」、赤い実は「禁断の実」、ベルは「羊飼いのベル」、クリスマスカラーの赤は「キリストの血」、緑は「常緑・生命力の象徴」を表すとされています。

園庭のもみの木に、今年も飾りつけをしました。一番上の星をつけるたびに毎年、もみの木が大きく成長して、私たちをいつも見守ってくれていると感じています。

冬の寒くて暗い季節、点灯したクリスマスツリーの灯りで明るくお出迎えしています。お仕事でお疲れになったご家族の心が温かくなりますように！！

クリスマスが皆様にとって幸せな時間となりますように…。

# 笑った顔？怒った顔？どんな顔？

コロナ禍でマスク生活が定着しています。幼い子どもたちは家族以外で会う人のほとんどはマスク越しでの出会いとなっている事でしょう。

幼い子どもは、「この人笑っているのかな？」「怒っているのかな？」など相手の気持ちを、大人の表情や口調を判断の材料にして組み取っています。しかし、コロナ禍で過ごす子どもたちにとって、相手の表情を見ながら気持ちを考えるという経験がとても不足しており、ご家庭が経験の出来る唯一の場でもあります。

いつもにっこりと笑っている優しいママ・パパでいたい…という気持ちも強いと思いますが、子どもたちと向き合う中で言葉と表情が一致できるような関わり方を心がけましょう。そして、表情豊かに関わることで、笑顔の多い日々が待っていますよ…。きっと…。

## (わかりやすい顔)



顔と言葉が一致している



赤ちゃんにもわかりやすい



怒っている事が  
伝わりやすい

## (わかりにくい顔)



①顔と言葉が一致しない



②普段の顔が怖い



③いつも怒っている



わかりにくい



伝わらないので何度言っても聞かない

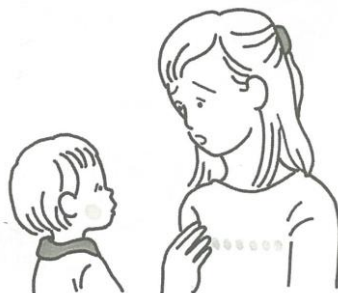
## 子育ては毎日が感情表現のワークショップ

喜びや感情や愛情を言葉や  
体で表現してみましよう



「大好き」「うれしいな」  
「ありがとう」  
ぎゅーと抱きしめる

ネガティブな感情を表現し  
伝えてみましよう



「いやだ」  
「それはしてほしくない」  
怒っている顔や声。悲しい顔や声。

やわらかい心と体を取り戻  
そう



子どもとうたう。  
大きな声で笑おう。  
子どもと走ろう。一緒に遊ぼう。



寒い夜、子どもを抱っこしながら心も体もあったかくなるような絵本を一緒に見ませんか…。



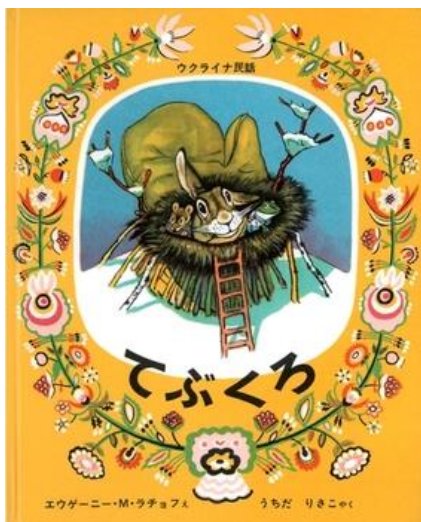
「まどから おくりもの」  
作：五味 太郎

サンタクロースがやってきて、家々をまわり、窓から贈り物を配って歩きます。穴あきになった窓からは、家の中の動物や子どもの体の一部がみえ、サンタさんはそれを見て「ここは誰々のおうち」と即断し、贈り物を選びますが……。あわてもののサンタさんの思いちがいひきおこす楽しい絵本です。

食べ物のない冬、雪の中で2つのかぶを見つけた子うさぎ。1つはすぐに食べ、もう1つは自分のために置いておくのではなく、友だちの所へ持って行ってあげます。自分と同じように友だちもきっと寒さに震え、お腹をすかせているだろうと心配して、雪の中かぶを届けに行くんですね。他の動物たちも同じ気持ちで同じことを……。他人を思いやるやさしさにあふれたお話です。



「しんせつなともだち」  
作：方 軼羣（ふあん いーちゅん）  
絵：村山 知義  
訳：君島 久子



「てぶくろ」  
作：ウクライナ民話  
絵：エウゲーニー・M・ラチョフ  
訳：内田莉莎子

ウクライナ民話から生まれた絵本『てぶくろ』は、日本でも1965年に内田莉莎子さんの翻訳で発売され、今でも変わらず子どもたちに読み継がれている傑作です。

本の魅力はいくつもあります。まずはなんといっても、少し不思議な展開です。最初はただの手袋だったはずなのに、「いれて」「どうぞ」の繰り返しにより、子どもたちの心にはドキドキが生まれてくるのです。「ほんとうに入るのかな？」「ちょっと怖そうなきつねがやってきたけど、大丈夫？」「この後どうなるんだろう…」。新しい動物が登場するたびに心配になり、ページをめくればその様子に驚きハラハラするのです。